

点 訳 通 信 第 2 1 号

日本ライトハウス
盲人情報文化センター

点字製作係
〒550 大阪市西区江戸堀1-13-2
TEL 06-441-0015

私 の 点 訳 ラ イ フ

河原 和美

点訳に疲れベランダに出ると、小さな鉢植えの花が私の目を休ませてくれます。花は小さいけれど強烈な匂いで自己主張している水仙。蝶のように花びらが風と戯れているパンジー。挿し木をしたのが根付いたのか枯れ枝のようなどころから、小さな蕾や新芽が出ている沈丁花や木瓜。点訳に疲れ花を眺めるなんて私にとって心おちつくひとときです。そしてこんな生活がいつまでも続くよう願っています。

私の今の生活から点訳に係わる時間をとってしまうと、何をして時間を過ごせばいいかわかりません。点訳講習期間中、テストで落とされると何度も聞いていたので、ある夜夢を見ました。「もう来なくてよい…」と言われて。夢からさめた時夢でよかった、とほっとしたものです。

私の思い出の1冊は、加賀乙彦著『小暗い森』（上・下）です。この本は、私に「おまえお何も知らない未熟者だよ。それを常に自覚して、初心を忘れずに謙虚な気持ちで点訳に取り組まないといけないよ」と言い聞かせるのです（分かっているんですけど実際にはなかなかねえ）。点訳をはじめてそろそろ1年、タイプの緊張感がなくなりパソコンに入力することが楽しくてたまらず、おろそかになった下調べと見直し。その結果このすぐれた文学書は私にとって戒めの書となったのです。

同じ間違いを性懲りもなく繰り返し、センターからの帰りの電車では自己嫌悪のかたまりみたいになっているのに、1週間も経つと、お仲間との楽しいおしゃべりや食事を楽しみにいそいそと出かける仕度をしています。

（かわはら かずみ）

Q

第1カギで囲んだ語句が並列している場合、1マスあけ？2マスあけ？“点訳のてびき”のP56の(3)で会話のやりとり等、独立した文が並列したとき、とあるのですが悩むときがあるので、例をあげて教えていただけないでしょうか。

A

はっきり、会話のやりとりとわかる場合はあまり問題ないと思いますが、カギの中が比較的長い文章の場合に迷うことが多いのだと思います。例をあげますと、

「君達は、どんなテレビ番組を見ていますか」という質問に、「もちもんアニメよ」「私は、テレビはあまり見ません」「連続ドラマを楽しみにしています」などと、いろいろな答えが返ってきました。

この文章の後の三つのカギは、ひとの喋った言葉ではありますが、“会話のやりとり”とはいえません。また、カギの並列のあとに、“などと、いろいろな・・・”という文章が続いていることから、独立した文章とは言えません。カギの中が文章ではありますが、“てびき”の例文、

「住所」「氏名」「電話番号」を書いて下さい。

と同じ類と考えられますから、カギの間は1マスあけとします。このようにカギのあとに助詞などがつづいているかどうか判断の目安になるかと思います。

2マスあけとする“独立した文章の並列”の例としては、次のような文章が考えられます。

彼らは「人を殺すぐらいなら、殺されるほうがよい」という、最も優しい民族のように思えた。「争わないことで争いに勝て」「怒らないことで怒りにうち勝て」ここは今なお仏陀の教えが生きている国なのだろう。

ミニミニ点訳講座

著者紹介は全巻終わりの前か後か、“あとがき”“はじめに”などの見出しと本文の見出しの関係(マスあけ数)が人によってまちまちのように思いますので、目安をつけるためにミニミニ点訳講座でとりあげて下さい。

上記のような要望がありました。今まで「これでなくては」というきまりを作っていたわけではありませんので、たしかにおっしゃる通りのことがありました。そこで、これを機に以下のような線を出してみました。

1. “まえがき” “あとがき” “著者紹介”に類するものの見出しは、本文の見出しの如何にかかわ

らず行頭6マスあけて書き始めます。

2. “全巻終わり”は、本文が終わったところではなく、“あとがき”が終わったあとに入れます。
3. “著者紹介”は表紙カバーや奥付の上などに簡単に書かれたものが多いので、“全巻終わり”としたあとで、ページを替えて書きます。この場合でも目次の項目には“著者紹介”として入れておいて下さい。本文の続きに書かれた“著者紹介”は“全巻終わり”の前に入れます。

なお、“点訳の手引き”P75 4.に「見出しが変わる場合は、(中略)線を引いたり、その線の次の行を1行あけたりして・・・」とありますが、この線は必要ありません。また“あとがき”に移る前の、本文の終わりにも区切り線は要りません。

※点訳者挿入符についてミニミニ点訳講座をしてほしいとの御要望がありましたが、これはとても難しいことですから、毎回1、2個ずつ実際の例をとりあげて、説明していきたいと思います。

そこで皆さんの点訳なさったものの中から、例をお借りすることがありますが、あしからずご了承下さい。

校正表から

皆さんは2校の校正表を読んでいただいているでしょうか。

今回は、「係りから」というよりは点字図書を利用するという立場から、一視覚障害者として皆さんにお願いしたい事を書いて見ます。

私たちが利用する図書としては、録音図書と点字図書があります。

録音図書の場合、読み手であるボランティアの肉声が直接利用者に伝わります。声の質、読む早さや調子、「音訳者注」での表現の仕方など、読み手のもつ特性の一部が直接聞こえて来る事で、録音図書に対する愛着やボランティアへの親しみを感ずります。もちろん、その事のもつマイナス面もあるのかもしれませんが、それは置く事にします。

一方点字図書の場合、「点訳者注」の付け方や「図」を文章化する時のセンスなどは伝わって来ませんが、録音図書に比べれば少ないと言えるでしょう。

私たちが点訳図書に愛着をもち、点訳ボランティアの方々に親近感を抱くのは録音図書の場合とは少し違います。「視覚障害者が自由に読み書きできる唯一の文字である〈点字〉を共有するボランティアが点訳されたもの」という事が大きいのです。

パソコン点訳の場合、点字データをカナ文字として表示したりプリントしたりする事ができるため、点字そのものを読む必要性はほとんどありません。その結果として「点字の読めない点訳ボランティア」が全国的に増えて来ているようです。これは私たち視覚障害者にとって大変残念な事であり、さびしい事です。

最近、点字図書館や点字出版所の関係者が集まって雑談をすると、「点字を読めないボランティアに読みやすい点字図書・優れた点字図書が作れるのだろうか」という事がよく話題になります。意見は様々で、なかなかまとまりそうにはありませんが、今後ますます取り上げられる事が増えると思います。点字を読める人が造った本と、点字の読めない人が点訳した本とで、どんな点がどのように違うのか、それを明確にする事はなかなか難しい事でしょう。ひょっとすると点訳書の善し悪しはそ

んな事とは無関係なのかもしれません。これから多くの場で様々な議論がなされる中で方向性が出て来る事かもしれません。

それはそれとしても、点字図書を作っていただいている皆さんに、点字そのものを読めるようになっていただきたいというのが今回のお願いです。幸い、2校の校正表はほとんどが点字で書かれています。これを読んでいただく事で今後の点訳の参考にもなりますし、点字を読む練習にもなります。点字の一覧表と首っ引きで校正表を読む事は大変な時間がかかると思います。その事で1週間次の入力ができないという事があるかもしれません。あえていえば、入力が少しぐらい遅れても校正表を読む事、点字を読めるようになっていただく事をお願いします。

パソコン点訳講座 (BASE編)

この記事は、NIFTY-Serveの「F E Y E B A S E」より筆者の許可を得て、転載するものです。

B A S Eは点字を入力する為のエディターです。エディターですから、一般のエディターの持つ便利な機能が揃っています。

一般のエディターで文章を入力する時、同じような文字が出てくる場合はどうするでしょうか？ 例えば、自分の住所や氏名、会社名等を頻繁に書く場合は、単語・短文登録をしておくと思います。また、簡易な文字で入力しておき、後で文字列置換を使用するという方法もあると思います。音楽の評論家が原稿をワープロで書く時、「フルトヴェングラー」を「ふるべん」と入力しておいて、後で、一括置換しているという話を聞いた事があります。

このような事はもちろんB A S Eでもできますが、B A S E特有の簡便入力方法もあります。今日は、その方法に付いて書いて見ます。

【短文登録】

これは知る人ぞ知る(^_^) B A S Eの必殺テクニックです。私はこれで、入力文字を2割ほどサボっています。

わざわざこれに触れるのは、意外にこの機能を使っておれない方が多いという事です。そういう方が見えたら、ぜひ使ってみてください。

S H I F Tキーを押しながら、F・8を押します。半角カタカナの50音(清音のみ)が左端に書かれた窓が開きます。R O L L U P、R O L L D O W Nキーで頁が変わります。ここに、短文を書き込んでいきます。最後に必ずリターンキーを押してから、E S CキーでB A S E画面に戻ります。

呼び出しはN F E R (無変換) キーを押しながら、最初の50音を入力します。

以下に、私が今入力している『千一夜物語』の短文登録ファイルの一部を示します。

NFERを押しながら、「よ」と入力すると、「おことば うけたまわり、 おおせに したがい
まする！」という文字がズラズラっと画面に入力されます。これは千一夜物語では、目下の人の常套
句となっています。こういう長い文字が勝手に入力されると快感があります(^; 以前に訳した『砂
のクロニクル』という本では、人の名前の代わりに「ソヴィエト社会主義共和国連邦カスピ石油公団
管理局船舶部長」と書く部分が何回も出てくる場合があります。これなぞ、短文登録の真骨頂発揮
という所ですが、あまりにも長すぎて、二つに分割しなければなりませんでした(^;

区切り線なども「ん」で中央にきちんと入ります。舌がまわらないような地名とか、アルファベッ
ト文字等を登録しておく、効果絶大ですね。

==== <<短文登録>> ↓↑で選択 [リターン]↓↑:登録 [ESC]:終了 [RLUP][RLDN]:頁替 =====

ミ: みはかせもち◇
ム: むはんまど じゃあふある◇
メ: おんな◇
モ: える もひん べん さーうい◇
ヤ: ◇
ユ: あいゆーぶ◇
ヨ: 「おことば うけたまわり、 おおせに したがいまする！」◇
ラ: ◇
リ: わーりー◇
ル: わじーる◇
レ: われわれ◇
ロ: ろーば◇
ワ: わたくし◇
ン: -----◇
ゝ: ◇
°: ◇

さて、上の短文登録ファイルを見られて、不思議に思われた方が見えるかもしれません。なぜ「わ
れわれ」が「レ:」の所にあるのでしょうか？ これは、「ワ:」が「わたくし」に取られているから、仕
方なく「レ:」の所に登録したのです。「おんな」も、変な所にありますね。「おとこ」で「オ:」を使
ってしまっているからです。しょうがないので、「女=メス」と連想を働かせて、「メ:」に登録した
というわけです。

「おとこ」や「おんな」なんて短い単語を登録してどうするの？ という声が聞こえそうですが、
この本では、これらは極めて出現頻度の高い単語ですので、登録してあります。

私の場合、一般の小説では、必ず「ワ:わたし」「カ:かのじょ」「オ:おとこ」「レ:おんな」というの
が登録されています。あ、それから、区切り線もですね。

----- ++++++++ -----

【短文登録・補足】

くだいようですが、「短文登録」の使い方の私の場合（1点訳ボランティア）の実例を書いてみま
した。

同じ見出しが何度も出てくる時には、その見出しを登録しておく、と便利です（例1）。また、図表
の頻繁に出てくる資料や教科書、コラムや囲み記事などの多い原本の点訳には、それに対応する枠を

します。リターンキーを押すと、その文字が編集画面に書き込まれると同時に、記憶されます。以下の例では、「あめりかがっしゅーこく だいとーりょー」と入力しました。

複写文字列：あめりか がっしゅーこく だいとーりょー◇

このようにして、次に、CTRL+KA、「ほわいと ほうす」等のように、次々と入力していきます。CTRL+KAを実行した時、前に記憶した文字が表示されますが、その上に書き込んでもかまいませんが、「↓」で空行を出してから入力した方がいいでしょう。記憶は32文字まで、全部で20件できます。

BASEを終了すると、この記憶は消えてしまいます。この点が短文登録と違う点です。

さて、入力していくうちに、また「アメリカ合衆国大統領」という文が出てきました。これは記憶されているので、呼び出して見ましょう。CTRL+KAを実行します。すると、最初のように、最下段に「複写文字列：最後に記憶させた文」の形で表示されます。「↑」キーを何回か押すと、「複写文字列：あめりか がっしゅーこく だいとーりょー」が出てきます。ここでリターンキーを押せば、その文字列がカーソルのある位置に取り込まれます。

さて、話がややこしくならないように、CTRL+KAという操作で説明しましたが、実は、文字列を記憶させる位置は検索文字を記憶させる位置と同じ所になります。という事は、F・6で検索文字を入力する形で短文を記憶させる事ができるという事です。試しにやってみましょう。F・6を押します。「検索文字列：」の次に、「ばそこん つーしん」と入力します。今度はリターンキーを押しても、画面には表示されません。

検索文字列：ばそこん つーしん◇

試しに、CTRL+KAを実行して見ましょう。ちゃんと取り込めますね。

次に、再度F・6で「NIFTY__Serve」と入力します。再度、CTRL+KAを実行します。「NIFTY__Serve」が最下段に表示されますが、「↑」キーを押すと、「ばそこん つーしん」が出てきます。さらに「↑」を押すと、先ほどの「ほわいと ほうす」「あめりか がっしゅーこく だいとーりょー」もちゃんと出てきます。F・6の場合は、押す度に「検索文字列：」の後が空白になりますから、記憶だけさせる場合は、こちらの方がいいでしょう。

短文登録だけでは、登録文字が足りない時に、この機能を組み合わせると、かなり入力を省力化できますね。

さて、入力をサボる方法で、一般のエディター入力でもよく使われるのが、簡単な単語でひとまず入力しておき、後で置換機能を利用して正しい文章にするという事です。

ここで気を付けなければいけない事は、思わぬ置換結果になってしまう場合があるという事です。「私立大学」という文字がたくさん出てくるので、これを「しり」と入力しておいて、あとで「しりつだいがく」と置換するとします。ある部分で「知り合い」という文章があるとすると、このなかの「しり」の部分「しりつだいがく」に置換してしまいます。「しりつだいがくあいに そーだんした ところ」なんておかしい事になってしまいますね。

特に点字データの場合、BASE内部では、画面に表示される文字を点字コードで処理していますから、もっとややこしくなります。「あ」も「1」も「A」も、全て点字では1の点なのです。うっかりすると、アルファベットの途中に仮名文字が入ってしまったたりする場合は無いとも限りません。

『点訳通信 19号』の「ミニミニ点訳講座」の印刷ミスでルビ行と本文行が重なってしまいました。ここにもう一度、再掲させていただきます。

ルビの処理について

最近、文章中のルビが目立ちます。

「点訳」という観点に立ってみると、それらは用い方によって幾つかの種類に分類することができるように思います。

例を挙げながら、ルビの用法を分類し、処理のしかたを考えてみました。

1. ふりがなとして付されたルビ

[例] 「わたしは、この住居ならびに家族のうちに存する^{イト}厭うべき事情に^{カンガ}鑑み」—彼はここで
咄嗟^{トツサ}に決心して床に唾を吐いた……

[処理] ルビのみを書きます。

2. 専門用語や流行語、業界用語など、特殊な読み方をする語につけられたルビ

※推理小説などには、新宿、警察、犯人^{ホシ}、刑事部長さんなど、この類いのルビが多いようです。

[例] 「遊女屋のお内儀になるのは、こんりんざい、おことわりだね。^{なか}吉原のくらしなんて、
もう、まっぴらだよ。」

[処理] 本行の読みを必要としない場合はルビのみを書きます。殊に、小説の会話文などでは
全体の流れを妨げるようなことのないように配慮しましょう。

3. 作者の意図で、特別な読み方をするもの

※ 雑誌やポピュラー・ソングの歌詞などには、このような使い方のルビが目立ちます。

[例1] お邸の中じゃ「私なんかはね！」って顔してる女房^{ボス}が覗きながら張り切って奥の方に
突っ立ってるのを、御前に控えてる女房^{キャリア}が笑ってるんだけどさ、なんにも分かんない
顔したお姫様がポーンと見てらっしゃるのよ……

[処理] 本来の読みを記すことで意味の理解を明確にできる例です。

る。

[処理] 本の内容や読者層などを考慮し、本行の読みとルビのいずれを優先すべきか十分に検討しましょう。

7. その他の例

[例] 織田¹⁵³⁴⁻⁸²信長が業なかばに倒れたのち、天下の実権をにぎったのは豊臣¹⁵³⁶⁻⁹⁸秀吉であった。

[処理] この例はルビと言うよりはむしろ文中注記の役割をなしているもので、人名の後に括弧で年号を記します。

[例2] 彼の表現は、いつも曖昧^{マヱ}で説得力に欠けるから……

[処理] これもルビというよりは点訳者註のような役割をもった内容であり、この文例では敢えて誤字であることを明記する必要はありません。

古文書や、作者が意図的に書いたもの場合は括弧内に（ママ）と書きます。

《ルビの扱いで考慮すべきこと》

- ①文章中でのルビの役割をよく考え、点訳する必要の有無を考えましょう。
- ②同じルビが何度も出て来るときの処理のしかたを考えましょう。殊に、二回目以降にルビのない場合は、よく考えて処理しなければなりません。
- ③最初にできた時に本行の読みとルビの両方を書き、二回目以降はどちらか一方だけを書く方法がありますが、そのような時でも巻数が改まった時には、改めて両方を書くようにするのが親切と言うものでしょう。
- ④ここに記した（例）は一つの目安です。絶対というようなルールがあるわけではありません。ケース・バイ・ケースで、読みやすい点訳を心がけるように工夫してみてください。

95年度は下調べを早く正確にできるよう、電子ブック辞書をそろえる予定です。また、「読み方調べ」辞典の編集作業（現在、一般用語：63,000件、人名：12,000件登録）も引き続き強化を行い、多角的な方法で検索できるようにいたします。パソコンが普及し、電子ブック辞書などパソコンで処理できる辞書がこれからは一般的となり、点訳しながら必要なときに検索し、画面で見ることも可能です。

この「通信」が手元に届く頃には電子ブック辞書も利用できると思います。そこで、購入予定の電子ブックも含め当センターで利用できる辞書の一覧表を作成しました。同じジャンルの辞書が存在すれば、

①「読み方調べ」→②「電子ブック」→③墨字辞書

の順で使い勝手、検索スピードなどが勝っております。

また、「読み方調べ」では、一回の操作で複数の辞書が検索できますので、例えば、同じ漢字でも一般的には「〇〇」と読み、法律用語では「××」と読み、歴史的用語では「△△」と読むなど比較しながら調べることも可能です。ただ、一般用語の登録件数がまだ6万5千件台と少ないのが難点ですが、今年末までには10万件の大台に乗せる予定です。

下調べ用辞書・一覧表

	墨字辞書	電子ブック	読み方調べ
一般用語			
国語辞典	広辞苑 逆引き広辞苑 大辞林 日本国語大辞典 国語大辞典 三省堂国語辞典 新明解国語辞典 角川国語中辞典 ー 大言海	広辞苑 広辞苑 大辞林 ー ー ー ー ー 20万よみ方書き方辞典 ー	ー ー ★大辞林 ー ー ー ー ー ー
現代用語	◆知恵蔵 ⁽³⁾ ◆現代用語の基礎知識 ◆imidass	◆知恵蔵 ◆現代用語の基礎知識 ー	ー ー ー
古語	岩波古語辞典	ー	ー
古文	古文書難語辞典 古文書文例大字典	ー ー	古文書難語辞典 ー

	俳句歳時記・新年～冬 俳諧人名辞典 ^{☆(4)}	— —	— —
短歌	短歌用語辞典	—	—
漢詩	漢詩名句辞典	—	—
故事・諺	日本名言名句の辞典 ことわざ辞典 故事・ことわざを 使いこなす事典 中国名言名句の辞典 中国古典名言事典 中国故事たとえ辞典	— — — — — — —	— — — — — — —
人文科学			
哲学 出版 新聞	◆哲学事典 出版事典 ◆新聞語辞典	— — —	— — —
宗教			
仏教	全国寺院名鑑 仏像巡礼事典 新・仏教辞典 仏教語大辞典 仏教語読み方辞典 日本仏教人名辞典 ⁽⁴⁾ 日本名僧辞典 ⁽⁴⁾ 戒名法名神号洗礼名大事典 ⁽⁴⁾	20万よみ方書き方辞典 — — — — — — —	— — — — — — —
神道	神社辞典 全国神社名鑑	20万よみ方書き方辞典 20万よみ方書き方辞典	— —
キリスト教	キリスト教用語辞典 聖書事典	— —	— —
歴史関係用語			
日本史	国史大辞典 日本史辞典 日本史用語の基礎知識 日本史用語辞典 日本近代史辞典	— — — — —	— — 日本史用語の基礎知識 — —
	歴史散歩事典 官職熔解	— —	— —

	— 大阪史跡辞典 ▼大阪府の歴史	— — —	大江戸おもしろ役人役職読本 — —
世界史	西洋史辞典 東洋史辞典	— —	— —
考古学	日本考古学小辞典 古墳辞典	— —	★日本考古学小辞典 古墳辞典
社会科学関係			
社会科学一般	◆社会科学辞典	—	—
法律	法律用語辞典 — 法律用語辞典 法律用語の基礎知識 法学研究者名簿 ⁽⁴⁾	— ビジネス法律用語の基礎知識 — — —	★法律用語辞典 — — — —
経済	◆経済学辞典 ◆株式用語辞典 ◆経済新語辞典 取引用語辞典 ◆会計小辞典	— — — — —	— — — — —
社会学	◆新編社会科学辞典 ◆社会学小辞典	— —	— —
民俗学	民族探訪辞典	—	—
福祉関係	◆社会保障事典 ◆社会福祉辞典 ◆社会福祉事業辞典	— — —	— — —
自然科学関係			
科学一般	科学大辞典 学術用語集・科学編	— —	— —
医学	医学大辞典 ◆常用医語事典 中国漢方医語辞典 漢方医語辞典 医療関係用語集	— — — — —	— — — — —
物理	学術用語集・原子力工学編 学術用語集・物理学編	— —	— —

数学	算数用語事典	—	—
化学	化学大辞典	— —	— —
電気	学術用語集・電気工学編 オーディオ用語事典	— —	— —
コンピュータ	◆新マイコン用語事典 ◆マイクロコンピュータ 用語事典	— —	— —
天文・気象	学術用語集・気象学編 学術用語集・天文学編	— —	— —
建築	学術用語集・建築学編 新しい建築用語の手引き 建築用語図解辞典	— — —	— — —
地学	学術用語集・地震学編	—	—
その他	学術用語集・計測工学編 J I S 用語辞典 単位の辞典 ▼単位と記号雑学事典 学術用語集・機械工学編	— — — — —	— — — — —
植物・動物	動植物名よみかた辞典 草木名彙辞典 学術用語集・植物学編 — 学術用語集・動物学編	— — — — —	— — — 花名辞典 —
農学	農業小事典 学術用語集・農学編	— —	— —
芸能・娯楽・趣味・スポーツ関係			
茶道	角川茶道大事典 茶＊辞典 茶道名数事典	— — —	— — —
落語	古典落語事典	—	★古典落語事典
囲碁・将棋	囲碁用語 スター棋士 23 人衆 ⁽⁴⁾	— —	— —

人名			
現代の人名	—	日本人名辞典	—
	人物ファイル事典・近世編	—	—
	人物ファイル事典・現代編	—	—
	人物ファイル事典・	—	—
	日本人名典拠録	—	—
	日本著者名・人名典拠録	—	—
	—	30万人よみ方書き方辞典	—
	人事興信録	—	—
	人物ファイル '93	—	人物ファイル '93
	現代人物事典	—	—
	現代日本人名録	—	—
	朝日人物事典	—	—
	大日本人名辞書	—	—
	著作権台帳	—	—
	国立国会図書館著者名典拠録	—	—
	現代翻訳者事典	—	—
	法学者名簿	—	—
	和学者総覧	—	—
	現代日本科学技術者大辞典	—	—
	日本書籍総目録（索引）	—	—
	俳諧人名辞典 ^{☆(4)}	—	—
	歌舞伎人名辞典 ⁽⁴⁾	—	—
	スター棋士23人衆 ⁽⁴⁾	—	—
	全幕内力士名鑑 ⁽⁴⁾	—	—
	プロ野球人名事典 ⁽⁴⁾	—	—
	Jリーグ全選手名鑑 ⁽⁴⁾	—	—
	日本仏教人名辞典 ⁽⁴⁾	—	—
	日本名僧辞典 ⁽⁴⁾	—	—
	戒名法名神号洗礼名大事典 ⁽⁴⁾	—	—
	新潮日本人名辞典	—	—
	コナイス人名事典・日本編	—	—
	歴史人名よみかた辞典	—	—
	政界・官庁人事録	—	—
	役員四季報	—	—
	現代物故者事典	—	—
	昭和物故者人名録	—	—
	日本社会運動人名辞典	—	—
	—	現代日本人名録	—
	—	①政治・行政・社会	—
	—	②経済・産業・ビジネス	—
	—	③学術・文芸・ジャーナリズム	—
	—	④芸術・芸能・スポーツ	—
	—	⑤科学・技術・医療	—
	—	キーパーソン	—
	—	文芸・学術・社会	—
	—	ビジネス・経済・政治	—

	—	芸能人・タレント人名事典	—
幕末明治維新	明治維新人名事典 幕末維新人名事典 幕末維新人物総覧	— — —	— — —
戦国時代	戦国人名辞典 戦国大名家臣団事典	— —	戦国人名辞典 —
鎌倉・平安	鎌倉・室町人名事典 平安人名辞典	— —	— —
古代の人名	日本古代人名辞典 日本古代氏族人名辞典	— —	— —
その他の人名	海を越えた日本人名事典 作家のペンネーム辞典 近代人物号筆名辞典 号・別名辞典 古代～近世 ◆防長人物百年史	— — — — —	— — — — —
架空人名	日本架空伝承人名事典	—	—
難読人名	名前の読み方辞典 同姓異読み人名辞典 難読奇姓辞典 難読稀姓辞典	— — — —	— — — —
外国の人名	世界人名辞典・東洋編 世界人名事典・西洋編 コンサイス人名事典・外国編 韓国姓名字典 中国人名辞典 —	— — — — — 中国人名辞典	— — — — — —
会社名・屋号・団体名			
会社名	会社四季報 会社四季報・未上場会社版	— —	— —
出版社	—	—	★出版年鑑名簿より作成
レストラン	—	—	大阪グルメガイド ⁽²⁾
団体	団体名鑑	—	—
その他の固有名詞			
鉄道関係	— 時刻表	— —	駅名辞典 ⁽¹⁾ —

- (1) パソコン通信により入手。
- (2) 電話により調査確認。
- (3) 人名に関してはルビあり
- ★ データ入力・校正中。 → 乞ご期待
- ▼ 辞書形式ではない。
- ◆ 読みの記載なし。 → 読み方調べとしては役に立たない。
但し、五十音順に並んでいることが多いので、類推はできる。
- 読み方調べとしては不向き

訂正とお詫び

前号（20号）の難読漢字コーナー「薬効による漢方薬の分類」の漢字の読みが間違っていました。謹んで訂正とお詫びをいたします。

誤	正
白頭翁 はくおうとう	→ ほくとうおう

⊗

掲 示 板

⊗

- ・電子ブック辞書を購入します。電子ブックは小さな躯体に、大量のデータが保管されており、簡単な操作で素早く検索することができます。下調べの時間を節約して、読みやすい本づくりに専念できるよう、また、少しでも利用者の手元に届く期間を縮めるためにもぜひ、活用して下さい。
- ・操作はいたって簡単、それでも「使用説明書を読むのはめんどろだ！」という方は、あるいは、ここがわからないと思われる方は気軽に声をかけて下さい。
- ・皆さまのご意見をお待ちしています。「意見箱」までお寄せ下さい。

⊗

⊗